

## 韓国訪問記 「養蜂界」創刊 30 周年 記念式典に参列して

酒井 哲夫

玉川大学へも来訪されたことのある朴恒均先生（前慶北大学・前韓国養蜂学会会長）のご厚情によって、株式会社東亜養蜂園発行の「養蜂界」の創刊 30 周年式典，それに「日本養蜂と今後のアジア養蜂の展望」について講演をとの招待を受け，本年 3 月韓国を訪問する機会を得たので報告する次第である。

### ソウル到着

3 月 23 日，到着したソウルの金浦空港では，相当に嚴重な手荷物検査があり驚いたが，それに反して入国審査は簡単で友好的な雰囲気であった。空港には，朴先生が自ら前韓国養蜂協会事務局長柳永秀と共に迎えてくださり感激した。私より 3 歳年上，1925 年生まれの朴先生は，旧制水原高等農業学校（現ソウル大学農学部）出身で完璧な日本語を当然のことながら使ってください大安心であった（図 1）。夜は韓国養蜂協会主催の歓迎会をコリアハウスで開催していただき恐縮した。

### 韓国養蜂協会

3 月 24 日，朴先生の案内でまず韓国養蜂協



図 1 朴先生と（ソウルにて）

会を訪ねた。1990 年，松香教授も訪韓の際訪問され，その報告（ミツバチ科学 11 巻 4 号）にもあるように整備された分析室（スタッフ 7 名）を持った立派な施設だった。見学のあと会長室で丁海雲会長とディスカッションの時間が持てた。主な内容は下記のとおりである。

1. 主要蜜源植物はニセアカシアでセイヨウミツバチの養蜂には充分である。トウヨウミツバチはほとんど訪花しない。口吻が短いためとの説明があったがこの点は疑問が残る。

2. ダニ類（ミツバチヘイギイタダニとミツバチトゲダニ）は薬剤でほとんど防除できている心配ない。

3. ハチミツの品質管理には特に力を入れている。協会の分析室での厳密な検査に合格したものだけに職員が直接現場に行き証紙を渡す。証紙には養蜂家名，蜜源植物名，採集地，採集年月日が記載される。

4. 会員はセイヨウミツバチとトウヨウミツバチ両種の養蜂家で成り立っている。

5. トウヨウミツバチの養蜂も守っていききたいが協会としてはセイヨウミツバチに傾きがちなのである。

### ソウル大学

大邸での再会を約して，ソウル大学農学部の禹教授の研究室へ向かう。ソウルから水原までは車で約 1 時間，途中市内，郊外のたたずまいに，驚異的な発展を続けている韓国の姿を見ることができた。ダニ類の研究室を始め各種実験室を大学院生の案内で見学したあと，会議を終えた禹教授とディスカッションができた。内容は韓国養蜂協会での討議事項にも及んだが，おおむね以下の 5 点に要約される。

1. 第 3 回アジア養蜂研究協会大会（ベトナム）の決議を支持し，トウヨウミツバチの見直しを進める。韓国ではトウヨウミツバチは全蜂群数の 50% 以上に達する現状を考慮する。

2. ダニ類の防除について，薬剤に頼りすぎる傾向は心配である。

3. トウヨウミツバチがニセアカシアに訪花しないとか，口吻が短くて吸蜜できないとかは



図2 創刊30周年を迎えた「養蜂界」

検討の余地がある。

4. ミツバチトゲダニの分布範囲についての調査はさらに続ける。

5. 韓国でもミツバチ科学の研究は、日本の玉川大学同様、ソウル大学での研究が中心となっている。玉川大学同様に立派な後継者育成につとめる。

### 「養蜂界」創刊30周年記念式典

15時28分水原発の特急列車は乗り心地もよく朴先生の他丁会長、柳氏も同じ列車で18時10分大邱着。東亜養蜂園の辛社長の出迎えを受け、夕食会は、遅れて到着された禹教授も加わられて賑やかだった。

3月25日、大邱は韓国でソウル、プサンに次ぐ3番目の大きな都市で、大邱にある東亜養蜂園は大きく、発行している「養蜂界」(図2)は、創刊以来一度も休まず30周年を迎えたとのことで心から敬意を表した次第である。記念式典は10時から、記念講演は11時からであった(図3)。招待されて韓国各地から集まった関係



図3 記念式典の会場

者は約80名に及んだ。

私の講演の演題は「日本養蜂と今後のアジア養蜂の展望」で、トウヨウミツバチについてアジア全体でその長所を生かした育種を各国で進めようというのが趣旨ではあったが、多くのセイヨウミツバチ養蜂家が参加ということで、やはり養蜂家が今後どう生き延び、発展していくかについて私見をつけ加えることにした。続く禹教授の「ミツバチの病虫害とその防除」の講演ではダニを中心とした内容であった(本誌p.175-177に関連記事)。講演は13時に終了した。25枚のスライドを使った私の講演は朴先生の通訳で進めていただき、80名の出席者が熱心に耳を傾けてくださって心から感謝した次第である。

短い滞在期間であったが、ソウルはもちろんのこと約1400年前新羅の古都として有名な慶州の観光も朴先生の案内で十分に堪能できた。改めて朴先生、辛社長をはじめ関係の皆様に深甚の謝意を表したい。

(〒798-13 北宇和郡広見町久保34)